

ようこそ、創造の現場へ  
〈中学1年生～18歳対象〉

# 劇場

岡田利規

(演劇作家・小説家・チェルフィッチュ主宰)

木田真理子

(ダンサー)

松田正隆

(劇作家・演出家・マレビトの会代表)

南村千里

(ダンスアーティスト)

# 学校

プロジェクト

受講生募集

申込締切  
5月24日(金)

高谷史郎

(アーティスト / ダムタイプ)

伊藤隆之

(YCAM Interlab 研究開発ディレクター)

ロームシアター京都  
ROHM Theatre Kyoto

## 申込方法

次の①～⑦を明記し、メール（件名：劇場の学校）または郵送でお申し込みください。

※郵送の場合は、所定の応募用紙に必要事項を記入の上、送付してください。

なお、ロームシアター京都のWEBサイト内「劇場の学校プロジェクト」のページでは、WEBフォームでお申し込みいただけます。

※お申込みいただいた個人情報は個人情報保護規程に従い厳重に管理し、本事業の実施のために使用いたします。

- ①氏名（ふりがな）
- ②学校名/学年/年齢
- ③住所
- ④保護者の氏名 および 緊急連絡先
- ⑤応募動機（何文字でも自由にお書きください）
- ⑥希望のコース（複数可）
- ⑦希望コース以外の座学講座に参加しますか？（はい・いいえ）

申込締切 2019年5月24日（金）必着

申込み/お問い合わせ

〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町13

ロームシアター京都「劇場の学校」係

e-mail oubo@rohmtheatrekyoto.jp

TEL 075-771-6051 (9:00-17:00)



ロームシアター京都

〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町13

TEL.075-771-6051（代表）075-746-3201（チケットカウンター）

FAX.075-746-3366

https://rohmtheatrekyoto.jp/

- ・京都市営地下鉄東西線「東山」駅下車1番出口より徒歩約10分
- ・京阪電鉄「神宮丸太町」駅下車2番出口より徒歩約13分
- ・市バス32・46系統、京都岡崎ループ「岡崎公園 ロームシアター京都・みやこめっせ前」下車すぐ
- ・市バス5・100・110系統「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車徒歩約5分
- ・市バス31・201・202・203・206系統「東山二条・岡崎公園口」下車徒歩約5分

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）/ 独立行政法人日本芸術文化振興会

後援：京都市教育委員会



# 劇場の学校プロジェクト 受講生募集

ロームシアター京都では、舞台芸術の「学校」を始めます。この学校の講師は、国内外の第一線で活動しているアーティストやエンジニアです。スタートの年となる今回は、「演劇」「舞踊」「メディア・パフォーマンス」の3つのコースを設けました。各コースは、講師の携わってきた作品とその背景にある考え方を知る「講座」と、実際に身体を動かして、舞台作品について考える「ワークショップ」で構成します。この学校は自分が何に興味があるかわかる機会や、人生の幅を広げる機会、あるいは、年齢・学校を超えた仲間との出会いの場になるかもしれません。みなさまのご応募をお待ちしております。

こんな人におすすめ！  
本やマンガが好きな人。映画やドラマ、アニメの世界に興味がある人。

## 演劇コース

岡田利規おかだとしき（演劇作家・小説家・チェルフィッチュ主宰） 松田正隆まつだまさたか（劇作家・演出家・マレピトの会代表）

2019年6月6日（木） - 8日（土）、11月2日（土） - 4日（月・休）

日程	内容	講師
講座	演劇は「役柄やストーリーといった情報を伝える」だけでなく、「想像をやりとりする」ものだ、というチェルフィッチュの演劇論に基づいた講座です。座学講座とワークショップを通じて、役柄とは別の次元の<イメージ>を立ち上げる俳優の演技について、受講者とともに考えます。	岡田利規
6月6日（木）18:00-20:00 ワークショップ		
6月7日（金）18:00-20:00 6月8日（土）13:00-16:00		
講座	まず、劇場から外に出て、道行く人々を観察するフィールドワークを行います。そこにある風景や音を採集し、短い「戯曲（芝居のための文章）」にしてみます。そして、みんなが生み出した言葉を声にし、「劇」がたちあがる瞬間を一緒に体験しましょう。	松田正隆
11月2日（土）14:00-16:00 ワークショップ		
11月3日（日・祝）14:00-16:00 11月4日（月・休）13:00-16:00		

中高生時代に影響を受けたもの



Photo: Kikiko Usuyama

『ラストエンペラー』という映画を見て、いたく感動。また、小説家・村上龍の書くことや考え方にすごく影響を受けていました。最近では『オープン・シティ』という小説（テジュ・コール著）がすごく好きでした。



Photo: Masataka Matsuda

ステイブーン・スピルバーグの映画、『未知との遭遇』が好きでした。いま、音楽は「昔のユーミンの曲」をよく聞きます。ショケン（萩原健一）が亡くなったのを見た『前略おふく様』が面白かったです。

岡田利規 | 演劇作家・小説家・チェルフィッチュ主宰

1973年生まれ。演劇作家/小説家/チェルフィッチュ主宰。活動は従来の演劇の概念を覆すとみなされ国内外で注目される。2005年『三月の5日間』で第49回岸田國士戯曲賞を受賞。08年デビュー小説集『わたしたちに許された特別な時間の終わり』で第2回大江健三郎賞受賞。18年、タイの小説家、ウティット・ヘーナムーンの原作を舞台化した『プラータナー：憑依のポートレート』をバンコクにて発表、今年6月に日本初演予定。



『三月の5日間』 Photo: Misako Shimizu



『福島を上演する』撮影: 西野正将

## 舞踊コース

南村千里みなみむらちさと（ダンスアーティスト） 木田真理子きだまりこ（ダンサー）

2019年7月13日（土） - 15日（月・祝）、8月29日（木） - 31日（土）

日程	内容	講師
ワークショップ	耳できく音楽を使用せず、自分の中にある音と動きからムーブメントを発展させるワークショップをおこないます。五感を駆使するダンスとは何か、一緒に模索していきたいと思います。	南村千里
7月13日（土）15:00-17:30 7月15日（月・祝）15:00-17:30 講座		
7月14日（日）16:00-17:30	※手話通訳が入ります。	
ワークショップ	私は、自分の身体をどれだけ拡張できるのか？という事に興味を持っています。一旦「ダンスをうまく踊る」ということから離れて、周りのモノと身体の関係、または周りの人と身体の関係などを考えながら一緒にダンスを大きく捉え直すことに挑戦してみましよう。	木田真理子
8月29日（木）18:00-20:30 8月31日（土）15:00-17:30 講座		
8月30日（金）18:00-19:30		



Photo: Chisato Minami

ブラザーズ・クエイによる『ストリート・オブ・クロコダイル』。今でも記憶に残る、クリエイティブな映画。最近では、Giuseppe Penoneによる『Spazio di Luce (Space of Light)』の芸術作品、素晴らしいかったです。

南村千里 | ダンスアーティスト

生後7か月目に聴力を失う。女子美術大学日本画学士号習得。ロンドンのラバン校卒業後、横浜国立大学大学院修士課程修了。2003年より2006年末まで、英国のCandoCo Dance Companyのダンスアーティストとして活動。現在、フリーランスアーティストとして、ロンドンを拠点に20か国40都市以上で公演、ワークショップを実施。きこえない視点からの視覚的音/音楽という、他にはない独創的なものに取り組んでいる。



『PASSAGES OF TIME』 Photo: Mark Pickthall



Photo: Mariko Kimura

バレエが忙しすぎて、趣味の時間を持てませんでした。最近では、本だったら『断片的なもの』の社会学、岸政彦、『バビロンに生きて歌え』池澤夏樹など。映画は『ハッピーアワー』濱口竜介、『人生はビギナズ』マイク・ミルズ。

木田真理子 | ダンサー

ローザンヌ国際バレエコンクール受賞後、カナダ、スウェーデンでプロダンサーとして活動、その後プリンシパルダンサーとしてスウェーデン王立バレエに所属した。プロワ賞(ロシア)、レオニード・マッシーニ賞(イタリア)、文化庁長官表彰(国際芸術部門)を受賞。2016年よりフリーランスとしてピナ・バウシュ・ヴッパタール舞踊団に客演するなど各国で活躍。立命館大学大学院先端総合学術研究所 所属。



『モーツァルト 大ミサ曲 ハ短調』 Photo: Hans Nilsson

劇場の学校プロジェクト、開講に寄せて

ロームシアター京都はティーンエイジャーに向けた劇場の学校を始めます。今年はそのトライアルとなります。劇場の学校とは、劇場で働くための職業訓練の場ではありません。また、通常の学校教育を補完するための場でもありません。あるいは、習い事の選択肢のひとつでもありません。では何か？それは、劇場という場で若者が「市民」へと成長する、社会教育の場であろうとしています。劇場で行われる表現活動は、技術・情報・他人との対話を駆使して成り立つ、つまり社会で「共に」生きていく上で必要なあれこれが詰まっています。もちろんそれだけでなく、卓越した表現で広い世界を舞台に活躍するアーティストたちとじかに触れあうことで、若者が未来に希望を抱くことがまず第一です。そして、将来の舞台を牽引していく人材がここから生まれれば、それに越したことはありません。新しい表現は、新しい場を切り拓くところからしか生まれないのだから。

(ロームシアター京都 プログラムディレクター 橋本裕介)

## メディア・パフォーマンスコース

伊藤隆之いとうたかゆき（YCAM InterLab 研究開発ディレクター） 高谷史郎たかたにしろう（アーティスト/ダムタイプ）

2019年11月18日（月） - 20日（水）、12月14日（土） - 16日（月）

日程	内容	講師
講座	コンピューターなどのメディアテクノロジーを用いた作品の「仕組み」について考えるワークショップです。簡単なゲームなどを通じて、その基本的な考え方を学びます。みんなでわいわい話しながら進められたらいいなと思っています。	伊藤隆之
11月18日（月）18:00-19:30 ワークショップ		
11月19日（火）18:00-20:00 11月20日（水）18:00-20:00		
講座	コンピューター・プログラマーと協働することによって、舞台装置をコンピューター制御し様々なエフェクトを作り出す新たな舞台表現の可能性について座学と実践で学びます。	高谷史郎
12月14日（土）14:00-15:30 ワークショップ		
12月15日（日）14:00-15:30 12月16日（月）18:00-20:30		



Photo: Takayuki Ito

中高生時代は、まわりの友人たちの趣味や嗜好に影響を受けていました。最近読んだ本で、『火星の人類学者-脳神経科医と7人の奇妙な患者』オリヴァー・サックス(著) 吉田利子(翻訳) というのが良かったです。

伊藤隆之 | YCAM InterLab 研究開発ディレクター

技術者です。大学、専門学校を経て山口情報芸術センターというところに就職しました。それ以降、アーティストや技術者・研究者の方々と一緒に作品やワークショップを作ることを主な仕事にしてきました。レコーディングやコンサートPAなどの音響エンジニアリングから、ソフトウェアを作ったり、バイオテクノロジーを使ってみたりと、分野を限定せずに活動してきています。



『Israel & イスラエル』撮影: 守屋友樹, 写真提供: 山口情報芸術センター [YCAM]



Photo: Shiro Takahashi

小説『時との戦い』カルペンティエール、パウハウス、ガウディの建築、藤原新也等の写真に影響を受けました。キューブリック、タルコフスキー、ゴダール監督の映画が好きです。

高谷史郎 | アーティスト/ダムタイプ

1963年生まれ。京都市立芸術大学在学中の1984年から「ダムタイプ」(マルチメディア・パフォーマンス集団)の活動に参加。1998年からダムタイプの活動と並行して個人の制作活動を開始。マルセイユ・フェスティバル、東京・新国立劇場、台北・國家兩廳院等での公演や、東京都写真美術館での個展等。また、坂本龍一や野村萬斎など様々なアーティストとのコラボレーションも多数。



『明るい部屋』 Photo: Kazuo Fukunaga

申込方法は裏面へ→